

P.2 ユニットIの解説

ユニットIは、名刺の出し方・受け方、名刺に対する日本人的価値観の認識などを問題として取りあげている。【解説】では、日本人が、その人の「顔」と同じ価値を名刺に置いていること、そこから、名刺を丁寧に扱うこと、両手で受けとることの必然性を説いている。本書で取り扱うマナーは、日本人新入社員向けられたものと重なる部分もある。たとえば、日本人でも名刺交換のマナーを知らないために林さんと同じような間違いをすることもある。しかし外国人の間違いは、日本人的な思考法やビジネスマナーを理解できないため生じている場合がある。ここでの教師の役割は、学習者に指摘させた問題点と解説のポイントが違う場合、その考えの違いを確認し、それぞれのマナーが生まれた背景について考えられる機会を与え、と、日本人教師の場合は日本人としての意見を加えることである。

練習のさせ方

ユニットIの練習①は、初対面の人との名刺交換の表現。練習②は、クラスの人とペアになって名刺交換する練習である。この練習をするとき、自分の名刺を持つていない学習者は、付録p.91の名刺を利用して自分の名刺を作り使用する。この練習をするときは、実際の名刺交換同様、2人が立って向き合う。そして解説でインプットされた名刺交換のマナーにしたがって行うよう指導する。クラスの中の外国人同士での練習に慣れたら、今度は、付録p.85の日本人の姓を参考にして、日本人と外国人になり、練習してもいいだろう。

教師は練習させるときに、しぐさ、距離感、視線なども、実際の場面に即して指導する。解説に示したマナーを情報としてインプットするのではなく、学習者が現実の場面で使えるように指導することが必要である。

まとめの利用

1課の教室活動として、たとえば、練習2はグループ対抗の○×ゲーム、練習1、3はペアになってQ&A、練習5は名刺交換に関する1分間スピーチに、などが考えられる。後半の課では、寸劇を作成しビデオに記録する、テーマにそってディスカッションをする、あるいは、日本人にインタビューしてみるのが考えられる。現場の先生方には、学習者の適性に合わせたものを工夫していただきたい。

学生のみなさんへ：

この教科書の対象者

この教科書は、将来日本語を使って仕事をしようと思っている人のために作られています。中級以上の人を対象としています。読むところが多いので、漢字の勉強がまだ不十分な人は、予習に時間がかかると思いますが、勉強の内容は、日本の会社で必要になるマナーや言葉づかいです。別冊の解答編を参考にすれば、一人で勉強することもできます。日本語学校で勉強している人は、クラスメートと一緒に役割練習をしたり、教科書で取り上げられているトピックについて話し合ってください。（*中級：今までに600～1000時間ぐらい日本語を勉強した人）

この教科書で勉強してほしいこと

私達はさまざまな文化の中で生きています。文化によって価値観も違います。みなさんが、自分の文化の習慣や価値観を、そのまま日本の社会に持ち込むと、日本人には理解されず、失礼だと思われたり、ときには相手を怒らせてしまうことがあります。でも、失礼だと思われたり、ときには相手を怒らせてしまうことがあっても構いません。文法的に正しい日本語を話しているのに、日本人とのコミュニケーションがうまくいかなくて悩むこともあるでしょう。

この教科書の主人公は、日本企業に勤めている「林学誠」という外国人です。林さんは、日本の会社でいろいろの失敗を経験します。みなさんも、林さんと一緒にさまざまな問題を解決しながら、日本語を上達させ、日本的な商慣習を理解してほしいと思います。

教科書の構成

1. 基礎知識：

基礎知識は、その1からその8まであります。まず、この部分の言葉や表現をよく勉強してから、本課の勉強を始めてください。

2. 第1課～第8課：

各課は、3つの【ユニット】と【まとめ】から構成されています。

主人公の林学誠さんについては、12ページの「登場人物紹介」を見てください。